

Title	中小企業と都市銀行-成長企業に対する融資戦略-
Sub Title	
Author	稲葉秀男(Inaba, Hideo) 古川公成
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1993
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1993年度経営学 第979号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001993-0979

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名

稲葉 秀男
(株式会社第一勧業銀行)

主査 古川 公成

副査 鈴木 貞彦

森川 英正

所属

古川 公成 研究室

中 小 企 業 と 都 市 銀 行

—成長企業に対する融資戦略—

情報と知識が富の源泉になる現代では、銀行はもはや利鞘で利益を稼ぐことはできない。本論文のテーマは、こうした時代認識のもとで、都市銀行の中小企業取引の分野における経営戦略、とりわけ融資面を中心とする今後の銀行経営の在り方である。まず、文献研究によって、中小企業ならびに中小企業の金融の問題を分析した。大企業体制の行き詰まりの中で、日本経済を活性化させ得るのは中小企業である。銀行は玉石混交である中小企業の中から、キラリと光る将来の日本経済を担う企業を発見し、そういう成長企業をこそリスクを取って育てていかなければならない。また、リスクの高まりに対しては、ポートフォリオ理論を応用した高度なリスク・マネジメントが要求される。次に、事例研究では、企業をダイナミックに成長する過程でとらえ、企業の成長モデルに現実の成長企業を適用してみて、成長の各段階で銀行に対してどのようなニーズがあり、銀行はそれにどう対応すれば良いかを検討した。結論は、中小企業の段階こそが、安定的な銀行取引が形成され、資金・情報などのニーズが企業の状態に応じて高まっていく時期である。しかしながら、そのニーズ、成長に対する考え方は企業ごとに全く違っていた。したがって、銀行は従来以上により早い段階で成長企業を発見するとともに、より顧客に密着した質の高いサービスを提供せねばならない。そのためには、何よりも現場の営業店の充実が重要である。